

今後の「私のしごと館」のあり方について（報告書案）

I 私のしごと館の概要

II 本検討会の検討経過

III 職業キャリア教育及び職業体験の意義並びに私のしごと館事業の整理

1 職業キャリア教育の意義

2 職業体験の意義

3 私のしごと館事業の整理

4 民間委託の視点・考え方

IV 民間委託の実施及びその評価

1 平成20年末における委託状況の評価方法

2 委託の状況

3 委員の意見

4 評価結果

V 行政減量・効率化有識者会議等の意見

VI 存廃について

今後の「私のしごと館」のあり方について（報告書案）

I 私のしごと館の概要

(1) 設置の経緯

「私のしごと館」の構想は、旧労働省が設置した「若年者等の職業意識に関する懇談会」（平成元年～3年）及び「働きがいと技能尊重に関する有識者懇談会」（平成4年～5年）の検討に基づくものである。

これらの懇談会では、若年者の職業意識啓発のため職業に関する情報の提供や参加・体験型の展示を実施する施設の設置が必要であるとの提言を行っており、この考えは、平成5年4月の「新総合経済対策」で具体化し、5年度補正予算には、「勤労体験プラザ（仮称）」に係る土地取得費として150億円が計上された。

次いで、同年8月には、勤労体験プラザ（仮称）を関西文化学術研究都市（精華・西木津地区）に設置することが発表され、6年3月には土地が購入された。

さらに、平成7年6月には、「勤労体験プラザ（仮称）基本計画」として、施設の趣旨、コンセプト、対象者等が公表され、この構想においては、建物の延べ床面積は、67,600㎡、年間集客数は75～110万人という計画内容になっていた。

その後、平成7年12月の第8次雇用対策基本計画、平成11年8月の第9次雇用対策基本計画といった累次の閣議決定や、平成9年4月の関西文化学術研究都市建設促進法に基づく基本方針改定（内閣総理大臣決定）などにおいて、施設の建設推進が位置付けられている。

建設着工は平成12年2月（延べ床面積35,000㎡）で、平成15年3月にプレオープン、同年10月にグランドオープンした。

(2) 施設の概要

私のしごと館は、京都府内の関西文化学術研究都市（精華・西木津地区）に位置している。

敷地面積は、83,000㎡、建物の延べ床面積は、35,000㎡である。

(3) 趣旨、目的、事業概要

私のしごと館は、中高生を中心に職業キャリア教育支援を行うため、職業体験や職業情報の提供、職業相談等、職業に関する様々なサービスをワ

ンストップで提供する施設であり、具体的には、次の事業を実施している。

① 職業体験事業（19年度の利用者：26万人）

約40職種にわたる様々な職業（機械工作等のものづくり、京焼・清水焼等の伝統工芸、美容師等のサービス業など）について、専門の指導者、本物の材料を用意した職業体験を実施。

② 展示事業

過去、現在、未来にわたる職業の変遷を映像などを用いて展示。

③ ライブラリ事業（19年度の利用者：7万人）

約700職種の職業について、その職務内容や必要となる職業能力に関する情報をデータベース化して、パソコンにより提供する「ジョブジョブワールド」の運営等。

④ 相談・援助事業（19年度利用者：約10万人）

若年者の職業生活設計を支援するため、職業適性診断やキャリア・コンサルティングを実施。

⑤ 研修・セミナー事業（19年度利用者：約5万人）

（4）設置費用

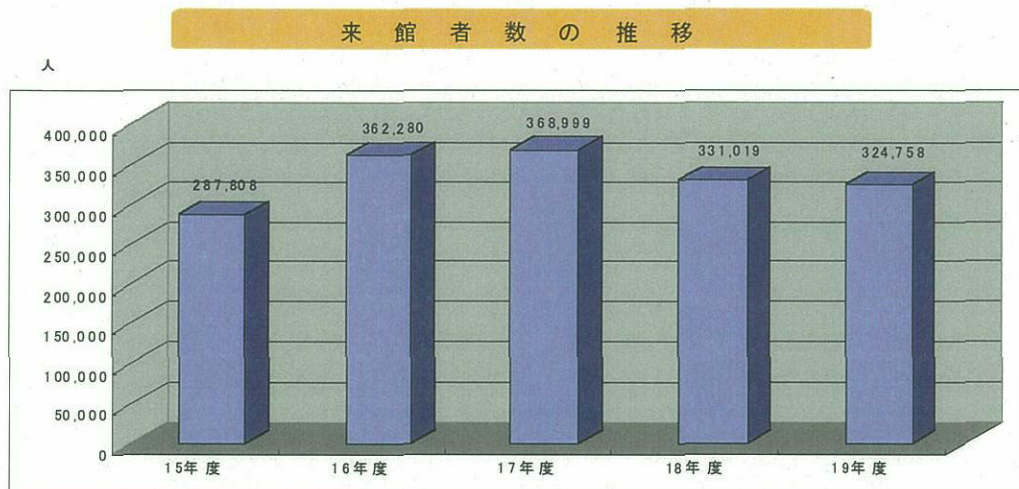
私のしごと館の設置に要した費用は次のとおりである。

なお、これらの原資は事業主負担のみから成る雇用保険上の拠出である。

合計	581億円
建物及び構築物	406億円
土地	150億円
その他 (造成設計等)	25億円

(5) 利用状況

- ① 開館以降の各年度毎の来館者数の推移は次のとおりで、年間30万人超が来館している。17年度以降、若干、減少の傾向にあるが、高校生の来館者数の減少が影響している。



- ② また、運営の目標として、サービス利用者延べ人数（各事業の利用者の合計）という指標を用いており、その推移は次のとおりであり、開館以降、増加傾向にある。この要因として、職業体験にとどまらず、他のサービスも組み合わせた利用が進んでいると考えられる。

